

上杉謙信公「義」のエピソード

上杉謙信公は、越後守護代であった長尾為景の末子として誕生。幼名を虎千代と名乗りました。天文5 (1536) 年に為景病死のため、家督は兄の晴景が継ぎ、虎千代は春日山城下の林泉寺に入り7～14歳の青年期を過ごします。謙信公の、戦国武将としては珍しい深い学識、厚い仏心はこの時代に培われたといわれています。その後、元服し長尾景虎と名乗り、病弱だった兄に代わって家督を継いで越後守護代となりました。

謙信公の戦歴は、元服をした天文12 (1543) 年に始まります。以降、武田晴信 (信玄) や北条氏康、織田信長といった戦国時代の名将と戦を重ねましたが、その戦いは欲によるものではなく、義を重んじ出兵したものだといわれています。武田晴信に領地を奪われた村上義清・高梨政頼らを助けるために出陣し、5回に渡り戦った川中島の合戦は特に有名です。しかし、敵対していた武田晴信が今川氏真によって塩を断たれた際、今川の行為を批判し、武田に塩を送ったエピソードは有名です。これを、江戸時代の陽明学者・頼山陽が讃えて「敵に塩を送る」という故事が生まれたといわれています。

謙信公の旗印「毘」の文字は、自らを生まれ変わりと信じ、厚く信仰していた毘沙門天からとったものです。総攻撃の際に本営に掲げられた「懸り乱れ龍の旗」から、越後の龍とも呼ばれました。また戦に長ける反面、和歌にも通じ、達筆であったといわれています。内政や外交にも才を発揮し、青苧 (衣類の原料となる植物) を栽培し、日本海を通じて全国へ広め、それを財源にしていました。天正6 (1578) 年、享年49歳で人生の幕を閉じましたが、その生涯は戦の連続でした。妻を持たず生涯未婚を貫くなど、戦国武将としては異色の人物であったといえます。

参考図書：花ヶ前盛明「上杉謙信」

謙信公の「義」を継承 ～次代を担う若者たちの参画～

今年の謙信公祭にも、事前準備から祭り当日まで、様々な場面で大勢の若者が参加してくれます。それぞれの「義」を胸に祭りに参加する姿は、謙信公祭見どころのひとつ！ぜひ間近をご覧ください。

謙信公については、「敵に塩を送る」という話が印象的で、尊敬する武将です。

謙信公祭は伝統ある行事です。狼煙上げの準備や小学生提灯行列の見守り、のぼり旗の設置、演武の披露など、謙信公祭を生徒「みんなで」盛り上げていきます！



春日中学校3年 竹内凜太郎 さん
野球部では背番号1番のキャプテン。生徒会長を務める。



春日中学校の皆さん (昨年の様子)

謙信公と聞くと、戦国時代を戦い抜いた「強い武将」というイメージです。

昨年は先輩たちの勇姿を見にいきました。とても恰好良かったです。そして川中島合戦の再現は観ていて興奮しました。弓隊のリーダーとして、みんなを引っ張っていきます！



上越総合技術高校3年 石橋 知樹 さん
団体戦で一番手を務める弓道部のエース。趣味は読書。



上越総合技術高校・弓道部の皆さん (昨年の様子)